

# 宮本早生(みやもとわせ)

登録番号：第82号

育成者：宮本喜次

登録年月日：昭和56年2月4日

来歴：「宮川早生」の枝変り

登録者：宮本喜次（和歌山県海草郡  
下津町鯉川195-1）

## 特性

昭和50年9月、「宮本早生」の果実が、初めて和歌山県果樹園芸試験場から送られてきた時、「極早生極まれり」と思った。当時の極早生の中では、群を抜いて見事であった。ウンシュウミカンの起死回生を極早生開発に賭けていた筆者にとっては、こおどりたい新品種の出現であった。

そのように見事な品種であったから、極早生の有望系を渴望していたミカン産地に急速に広がっていった。ところが、本品種が発生した下津町にはトラミカン（カンキツモザイク病）の汚染園が点在しており、本品種の苗木や穂木が部分的に保毒していたことが判明し、大恐慌となった。関係者の努力により無毒苗が普及してこの騒ぎは終息した。

原産地の和歌山県の極早生は本品種が主流であり、九州各県やその他の産地にも導入されており、極早生の中で生産量は1位である。

### ■栽培特性

宮川早生に比べ、葉はわずかに小さく、枝はやや密生する。接木当初は枝がよく伸びるが、結果期になると節間がつまるようになり小型の樹姿になる。樹勢はやや弱いが、豊産性が隔年結果性はない。

### ■果実特性

果実の初期肥大は良く、9月中旬にはM～L果になる。果実は極めて扁平で、果形指数は140以上である。「山川早生」などの扁平系同様、他の極早生や早生温州に比べ、オシベが短い。花の時期から子房が扁平で、幼果期から成熟期にかけて、ますます扁平になる。開花期に昼夜の温度較差が大きくても腰高にならない。果面は平滑で、つやがあり、果皮は薄い。9月上旬から緑が退色し始め、中旬には2分前後、9月25日頃には4～5分、早い果実では8分以上に着色する。果肉の成熟も早く、9月上旬には赤味がみられ、果汁が増え、中旬には酸含量が1.5%前後になる。下旬には酸が1%近くに低下し、糖度も10%近くになる。九州や紀南の温暖地では9月中下旬から10月上旬に出荷する早期出荷タイプの極早生である。

### ■病虫害抵抗性と問題点

トラミカンは温州萎縮病に近縁のカンキツモザイクウイルスによるもので、土壌伝染するやっかいな病気である。いったん汚染すると取り返しがつかないことになる。本種の栽培には、ウイルスフリー苗を用いることが最も肝要である。

### ■地域適応性

極早生の中では、着色、減酸および糖の増加が早い方で、早期出荷に適している。扁平で大果系だから、遅くまで樹上におくと浮皮や味ぼけになりやすい。したがって、適地は温暖な早出し地帯である。ところが最近、10月中下旬に完全着色の「宮本早生」を出荷して成功している産地がある。腰高果でなやむ内陸産地では本品種の完熟果栽培を試みるのも面白い。

(岩政正男)